

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 島根大学大学院教育学研究科・島根県教育委員会／鳥取県教育委員会
	事業名： 山陰若手教員交流セミナー（2024）
	研修等名： 【NITS・島根大学コラボ研修】山陰若手教員交流セミナー（2024）
	開催日時：【第1回】令和6年8月19日13時00分～16時45分 【第2回】令和6年12月3日15時30分～16時45分 開催場所：【第1回】山陰教員研修センター（島根県松江市大輪町416-4） 【第2回】島根大学教育学部（島根県松江市西川津町1060）【オンライン開催；Zoom】 参加人数（総数）と参加者の属性：50人（学校教員23人、学生・院生7名、島根大学13名、教育委員会6人、外部講師1人）
目的： 【研修の趣旨】 島根大学、鳥取県教育委員会、島根県教育委員会の三者が連携、協力し（山陰教師教育コンソーシアムの取り組みの一環として）、若手教員に対する山陰両県が抱える課題の解決と学び続けていく教師の育成を志向し、若手教員の教員ネットワークの構築及び、指導力向上に寄与する研修の場を提供する。 【研修のねらい】 ①これまでの実践を振り返り、言語化したり可視化したりする中で、今の自分自身を見つめ直し、潜在的な意識や能力（強み）に気づく。 ②自分がめざす姿、ありたい姿に向けた具体的な達成目標を考える。	
内容： 【第1回】 ①第1セッション：パネルディスカッション「私の教育実践と今後に向けて」 ○全体での実践発表 ※小学校3名 ○トークセッション ・発表者でパネルディスカッション ・フロアーの参会者からの感想・質疑応答 ②第2セッション：グループ別リフレクション（1グループ3、4人の6グループに細分） ○第2・3セッションの概要説明、アイスブレイク、ワークシートの記入方法の説明、ワークシートの記入 ○各グループで「行為の報告」→「行為の振り返り」→「新たな気づき」を一人ずつ繰り返し実施する。 ③第3セッション：リフレクションでの学びを活かした今後の展望 ○ワークシートの記入について説明、ワークシートに各自記入、グループ内で意見交換 ④リフレクション：各グループ代表の振り返り ○本日のセミナーについてグループ代表2名から感想及び大学教員からのコメント 【第2回】 ①第1セッション：実践発表（15分） ○「自身の強みを生かして、これから挑戦したいこと」 ※中学校1名 ○トークセッション ②第2セッション：グループディスカッション（1グループ3、4人2グループ）（40分） ○「これまでを振り返って・今後に向けて」 ○各グループからの報告	
成果： 【第1回】 満足度の肯定的評価は100%（満足75%、まあ満足25%）であった。 【第2回】 満足度の肯定的評価は100%（満足83%、まあ満足17%）であった。 ◆受講者の学びの一例は以下の通りであった。（受講者のアンケートより一部を抜粋） ・他県の先生方と意見を交流する中で、それぞれの教育観について知ることができ大変刺激になりました。自分の教育観や大切にしていることが何かについて改めて考え発見することができ、とても良い機会になりました。 ・リフレクションを主とした本セミナーでは、これまで自分が行ってきた教育活動がどのような信念、考えをもっていたのか、自分の中で整理するいい機会になりました。 ・今回のセミナーでは、他の先生も同じように悩み、また、それぞれのやり方で乗り越えようとしていることに気づくことができた。このような会を通して、自分の実践や悩みを伝えることができると、自分だけでは思い浮かばない方法を他の先生から知ることができるため、参加するメリットはとて大きいと感じる。	

「NITS からの提言（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

・「NITS からの提言（第一次）」をもとにした本研修の気づきは、以下の諸点である。

第一に、共通言語③：「豊かな気付きが醸成される学び」との関連についてである。本研修では、若手教員が困難に直面した際、それを乗り越え回復するといったレジリエンスを高めることを一つの目的としている。そのため、これまでの自身の行為を仲間と振り返るといったリフレクションが主たる活動である。その研修内容については、多くの参加者から肯定的な反応を示していることが、事後アンケート（自由記述欄）からも確認された。この点は、次年度以降の研修を計画するうえでも参考となるものである。

第二に、共通言語⑤：「学び合いのコミュニティ」との関連についてである。本研修は、鳥取県教育委員会、島根県教育委員会及び、島根大学の三者が連携して実施するものであり、その点において他の研修と異なる独自性を有している。また、それに伴う参加者は、鳥取県・島根県の両県の若手教員である。本研修は、普段は交流の機会が少ない他県の教育に触れる機会となっており、その点を評価する参加者も多い（事後アンケート自由記述欄より）。継続して参加する教員も増えてきており、他県の教員との学び合いのコミュニティが構築されつつあるという点においても、本研修の意義は大きいと考えられる。

何より本研修は、「NITS からの提言（第一次）」にみる、学び手たる教職員が「主語」となるものを念頭に置き計画、実施してきた。そのため、参加者が自身の教育実践を自分の言葉で語る機会を担保するよう努めてきた。そこでは、参加者が自分ごとと捉え、自らを振り返りながら盛んに議論する様子を確認することができた。今後も、教職員が主語となる研修の設計に注力していく。

アイディアや工夫したこと：

- ・採用後の経験年数が異なる 1 ～ 5 年目の教員が同じグループになるように編成したことで、悩みの共有にとどまらず、経験の違いを活かした失敗・成功体験や情報交換、教員同士の助言につながった。
- ・参加者が主役となるように、指導実践の紹介をもとに、これまでの取組や体験について、全体で省察を行った。
- ・グループでの話し合いを通して、実践を振り返り、気づきを生かし今後の展望を考えるリフレクションを行った。
- ・こうした省察や話し合いを通して、自分自身の課題解決の糸口や強みに気づくとともに、リフレクションを繰り返しながら成長し続けるという学びの姿勢を身に付ける機会となるよう、第 1 回と 2 回を関連付けた。
- ・鳥取県教委・島根県教委と島根大学で構成する山陰教師教育コンソーシアムの事業として、周知・運営、振り返りまで、両県教育センター等と大学で協働して行えた。

【第 1 回セミナーの様子】



＜全体発表＞

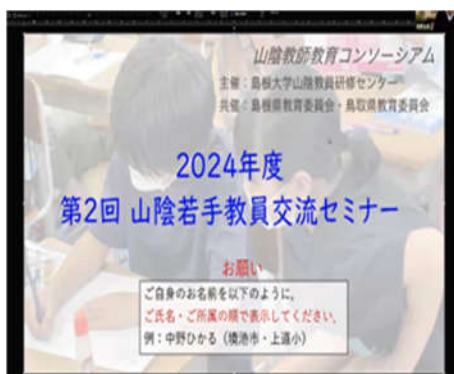


＜パネルディスカッション＞

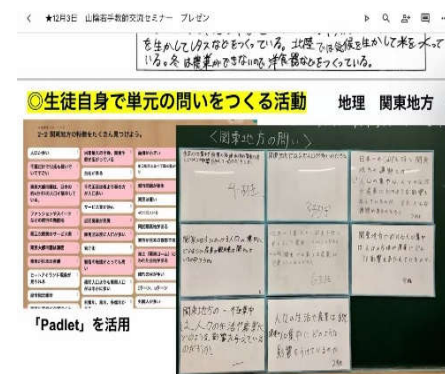


＜グループによるリフレクション＞

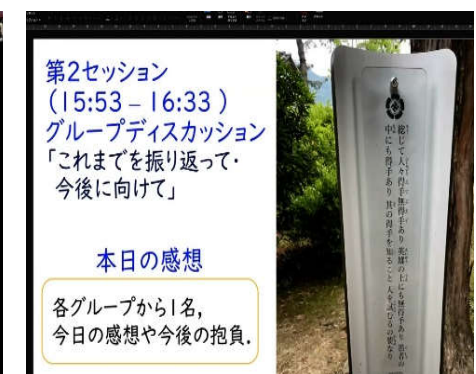
【第 2 回セミナーの様子】



＜オンラインによる交流＞



＜実践発表＞



＜リフレクション＞